

非鉄金属

大和合金

鷹取製作所と業務提携へ

水素関連市場の捕捉目指す

新素材開発・評価などで連携

特殊銅合金の鍛造品や押出品などの事業を展開する大和合金(本社・東京都板橋区)は、船用バルブなどを手掛ける鷹取製作所(本社・福岡県うきは市)と業務提携する。今後成長が期待される水素関連市場の捕捉が狙い。新素材の開発・評価・応用展開で緊密に連携するとともに、互いの顧客基盤に水素関連製品を供給。両社の強みを生かし顧客の求める合金・製法の製品をより最適に提案する体制を整えるなどしてシナジーを創出する。

水素は低炭素化や調圧リスク低減に寄与することが期待される次世代エネルギー。大和合金の萩野源次郎社長は今回の業務提携について「水素関連市場の本格的な拡大を前に、しっかりと供給できる体制を整備していく」と話す。

提携は大和合金・三芳合金工業のグループと鷹取製作所・TCA S Tのグループの間で、月内にも締結する方針。大和合金のグ

ープは合金設計や鍛造などの技術に優れる。さらに水素脆化に強い銅合金のラインアップが豊富で、少量でも顧客のニーズに応じて成分・特性を柔軟に調整できることも特長となっている。一方で鷹取製作所のグループは水素関連素材の技術開発に積極的に取り組んでおり、その鍛造や構造評価技術で知見を有する。提携による連携強化で、技術的補完関係に基づく製品開発・事業展開を進め、水素関連市場を捉える考えだ。

今後は強度や耐水素脆化性などを備える新素材の共同開発を推進。エネルギーやモビリティ、インフラなどの分野での社会課題解決などにつなげる。また鍛造品や押出品を手掛ける大和合金のグループと铸件分野などで技術を有する鷹取製作所のグループが互いの顧客基盤に水素関連製品を提案すること、

顧客は幅広い製品をワンストップで調達できる

バルブ部品用の丸棒や

るメリットが出る。

大和合金では耐水素脆化性と強度を両立する素材特性で、水素分野で用いる部品の小型・軽量化に寄与できる利点などを武器に新市場を開拓したい考え。配管用のパイプなどの供給を視野に入れている。将来的には売上高の5～10%程度を占める分野にすることを支える一つの分野に目指す考えだ。